

令和5年5月27日

第2回 野菜づくり講座

隠岐支庁農林水産局 農業振興部
隠岐地域振興第一課
松浦 有紀

本日の講義内容

苗の植え方のポイント

トマト・キュウリ栽培ポイント

苗の植え方のポイント

- 実生苗と接木苗とは？
- 良い苗の選び方（4つのポイント）
- 苗の植え方のポイント
（植付前、植付時、植付後）

実生（みしょう）苗と接木（つぎき）苗とは？

○実生苗（みしょうなえ）
タネから育った苗のこと

○接木苗（つぎきなえ）
土台となる植物（台木）に育てたい別の植物（穂木）を
つなぎ合わせて栽培された苗のこと
（例）トマトやナス、キュウリなど果菜類

<メリット>

- ・ 土壌病害の回避
- ・ 品質向上や収穫量の増加 など

<デメリット>

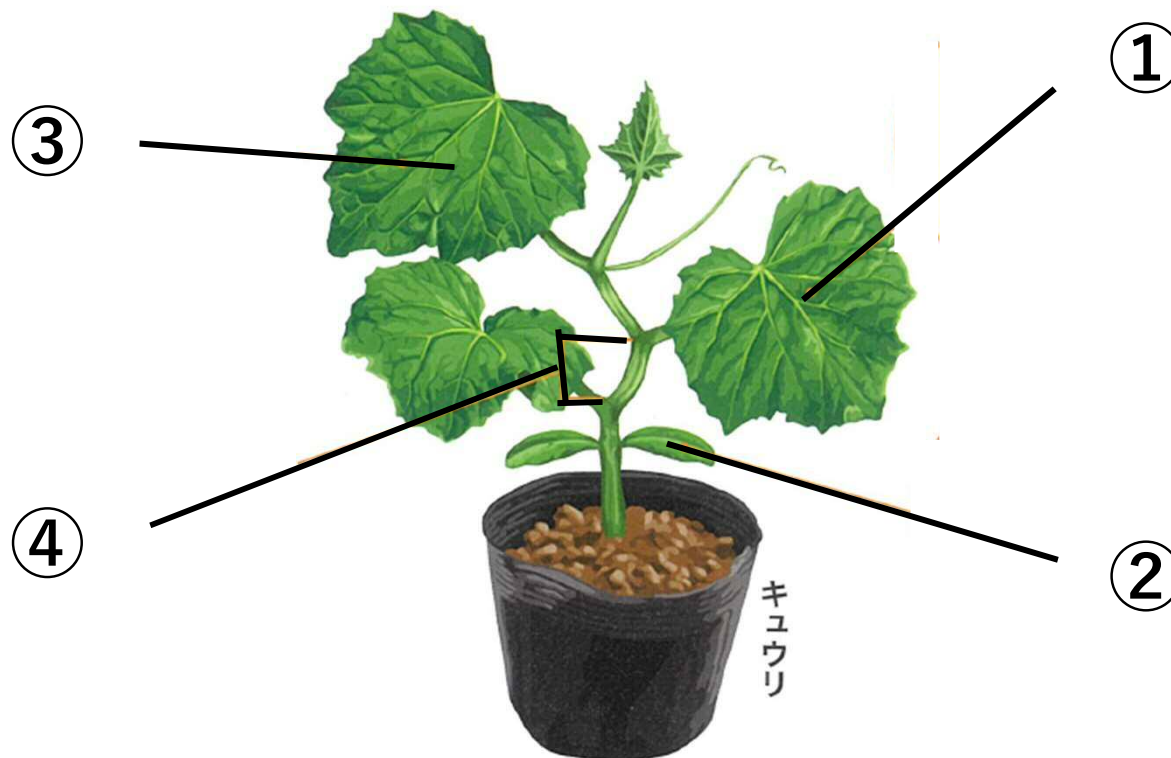
- ・ 実生苗に比べ、価格が高い
- ・ 苗を作るのが難しい など



良い苗の選び方

4つのポイント

- ①虫食い葉や病気に侵された葉、枯れた葉がないか
- ②子葉が2枚とも緑色のまま残っているか
- ③その野菜本来の葉の色、つやをしているか
- ④節間が詰まり、がっしりしているか



苗の植え方のポイント

～植付前～

- ・ 苗をしおれた状態で植えない
 - ⇒ 植付前はあらかじめ水をやりしておく
- ・ 寒い時期の定植 植付前にマルチを張って地温を上げる
 - ⇒ 特に夏野菜など

～植付時～

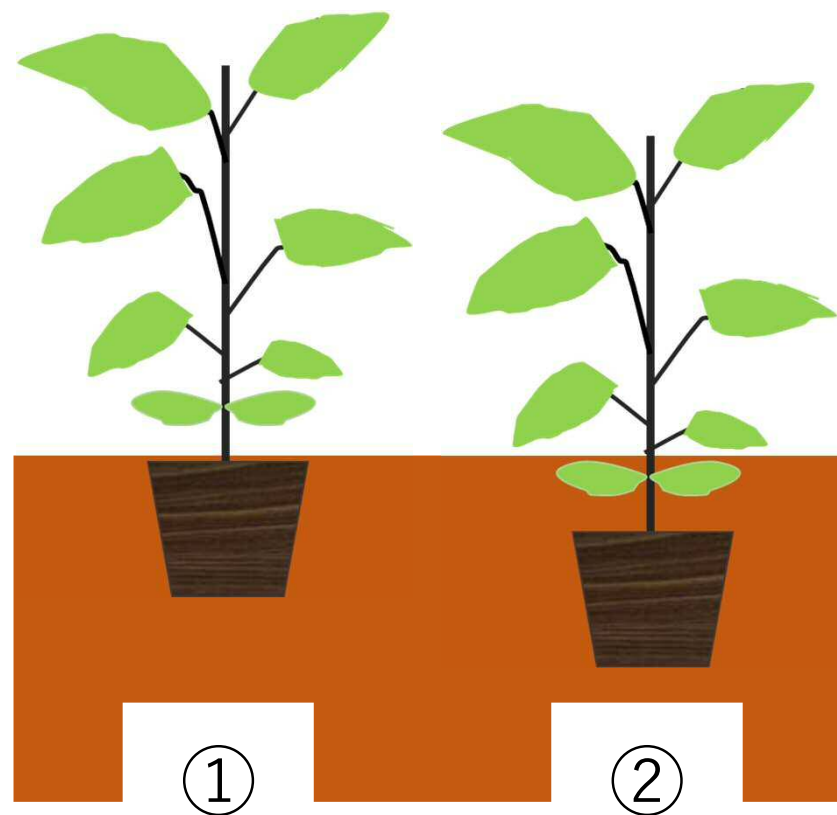
- ・ 浅すぎず、深すぎず適切な深さで植える
 - ⇒ 接ぎ木苗では、接いだ部分を埋めない！
- ・ 土と根鉢を密着させる
- ・ 根が切れないように注意する

～植付後～

- ・ 果菜類などは仮支柱を立てておく
- ・ 植付後はしっかり水をやる（根付くまで）



植付の深さはどのくらい？



- 地面とポット苗の土の表面はそろえる（左図①）
 - 葉が地面の中に隠れるくらい深くは植えない（左図②）
 - ⇒ 深植えは、株元の通気性が悪くなり、病気が出やすくなる
- ※ウリ科野菜では注意！

トマト栽培ポイント

- トマトの特徴
- 植え方
- 栄養状態の見方、生育に応じた対策
- 代表的な病害、生理障害

トマト類について

- ・ナス科野菜（ナス、ジャガイモ、ピーマンなども同じ科）
- ・根が深く張る
 - ⇒ 深く耕された、排水の良い有機質が多い土が適する
- ・過湿には弱い
- ・強い光が必要
 - ⇒ 日当たりの良い場所で栽培する

発芽適温：25～30℃

生育適温：20～30℃

施肥設計例（1 m²当たり）

	肥料名	施用量
元肥	完熟堆肥	2 k g
	苦土石灰	1 0 0 g
	有機入化成特 A 8 0 1	2 0 0 g

トマトの種類（大きさ）

- ・大玉トマト
重さ200g程度
- ・中玉（ミディ）トマト
大玉トマトとミニトマトの中間の大きさ
重さ30～60g程度
- ・ミニトマト
重さ10～30g程度

<農薬散布時の注意点>

「トマト」と「ミニトマト」では、

同じ農薬が使えない場合がある

○大きさを区別

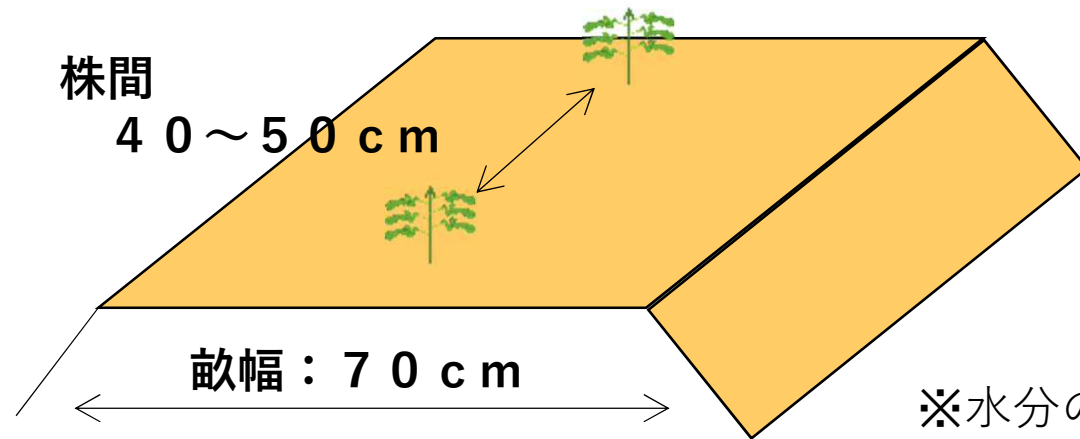
「トマト（大玉、中玉）」：3cmより大きい

「ミニトマト」：3cm以下

※農薬を使用する際は、ラベルをしっかりと確認すること。

植え方

- (例) 70 cmの畝に1条、株間40～50 cm定植
120 cmの畝に条間60 cmで2条、株間40～50 cm定植



※水分の蒸発防止、雑草防止のために
マルチを使用するとよい

★植え付けのポイント★

- ・ 植え付け前は苗に灌水する ※しおれた状態で植えない！
- ・ 深植えしないように苗を植え付ける
- ・ 花が咲いている苗の場合、花が通路側を向くように植える
⇒ 収穫が楽になる

トマトキュウリなど 定植後の栽培管理で耳にする用語（その1）

○整枝（せいし）

- ・ 枝の整理を行うこと
（例）誘引、芽かき、摘芯など
- ・ 株の中まで風や日光が入りやすくなる

【効果】

- ・ 病害虫の被害に逢いにくくなる
 - ・ 草勢のバランスを維持
- ⇒ 「品質の良い」野菜を収穫出来る

○誘引（ゆういん）

- ・ 支柱を立ててヒモなどでくくる作業
- ・ つる性の野菜、倒伏懸念のある野菜で行う
（例）キュウリ、トマト、ナスなど

(その2)

○芽かき（めかき）

- ・ 不要な芽（わき芽※）を取り除く作業

（ 不要な芽は放置して伸ばすと・・・ ）

- ・ 株全体の生長が悪くなる
- ・ 葉が茂りすぎて、風通しが悪くなる
- ・ ※病害虫の被害を受けやすくなる

※わき芽：葉のつけ根から伸び出る芽のこと

○摘芯（てきしん）

- ・ 枝の先端（生長点）を摘み取る作業

【効果】

- ・ いっせいに側枝を出させる
- ・ 養分を果実や残った茎葉に振り向ける
- ・ 草丈を制限する（作業しやすい高さへの調整）

(その3)

○摘果（てきか）

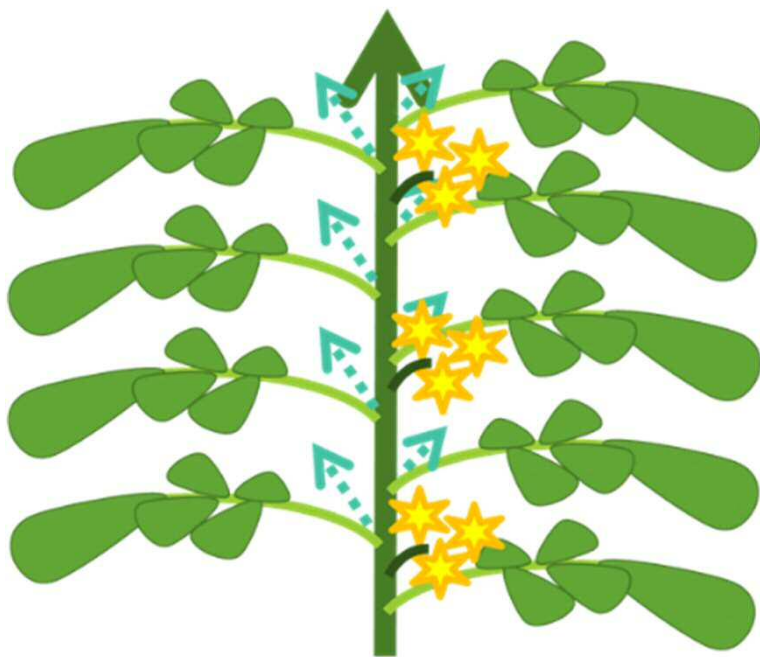
- ・先の方や形が悪い実を取り除く作業
- ※株への負担軽減 ⇒ 長期収穫につながる
- 残した果実に養分集中 ⇒ 果実の肥大、品質向上

○追肥

- ・生育期間中に肥料を施す作業

整枝（せいし）

- ・ トマトは 葉が3枚ついて次の花が咲く
- ・ 品質の良い果実をつけるために 枝の整理（整枝）を行う



- ・ 随時、わき芽を取る
- ・ 摘芯（てきしん）を行う
伸ばしたい高さまで茎が伸びたら、
花の先に葉を2枚残して、
主枝先端を摘む



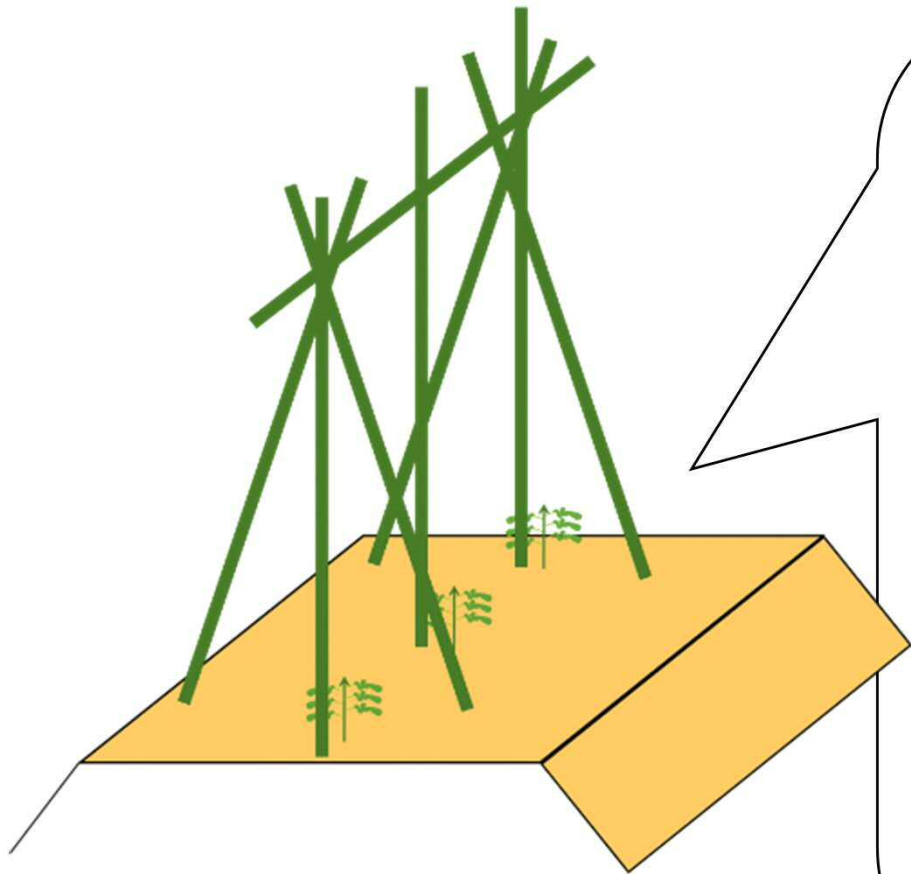
わき芽・・・手で摘み取る



トマト

誘引 (ゆういん)

- ・ 重みで倒れてしまうため、支柱を立ててヒモでくくる



紐で誘引する場合は、
余裕を持たせて8の字で結ぶ



タキイ種苗HP「トマト栽培マニュアル」より抜粋

芽かき（めかき）

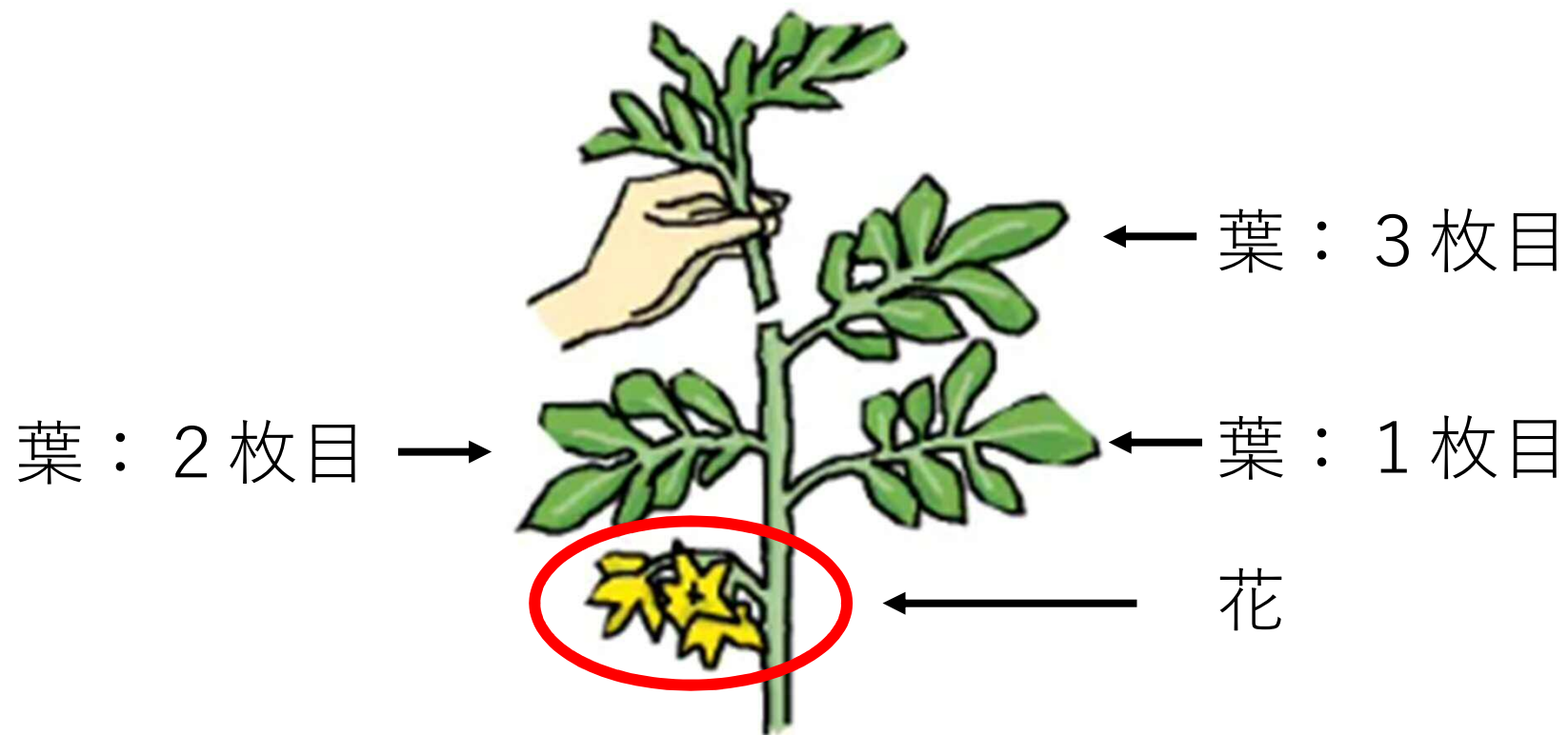


赤く囲んだ部分：「わき芽」
小さいうちに早めに取り

摘芯（てきしん）

伸ばしたい高さ（花3～5段）まで茎が伸びたら、
花の先に葉を2～3枚残して、主枝の先端を摘む

< 摘芯例 >



摘果（てきか）

○大玉トマトの場合

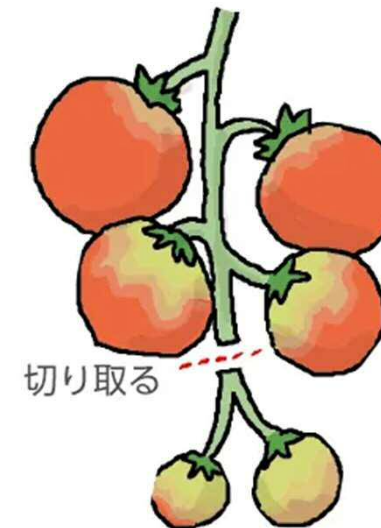
1 果房に 4 個を目安に果実を残して摘果

※草勢を維持しながら、実の肥大と品質を向上させる

< 摘果のタイミング >

果実が500円玉～ゴルフボール大になった時

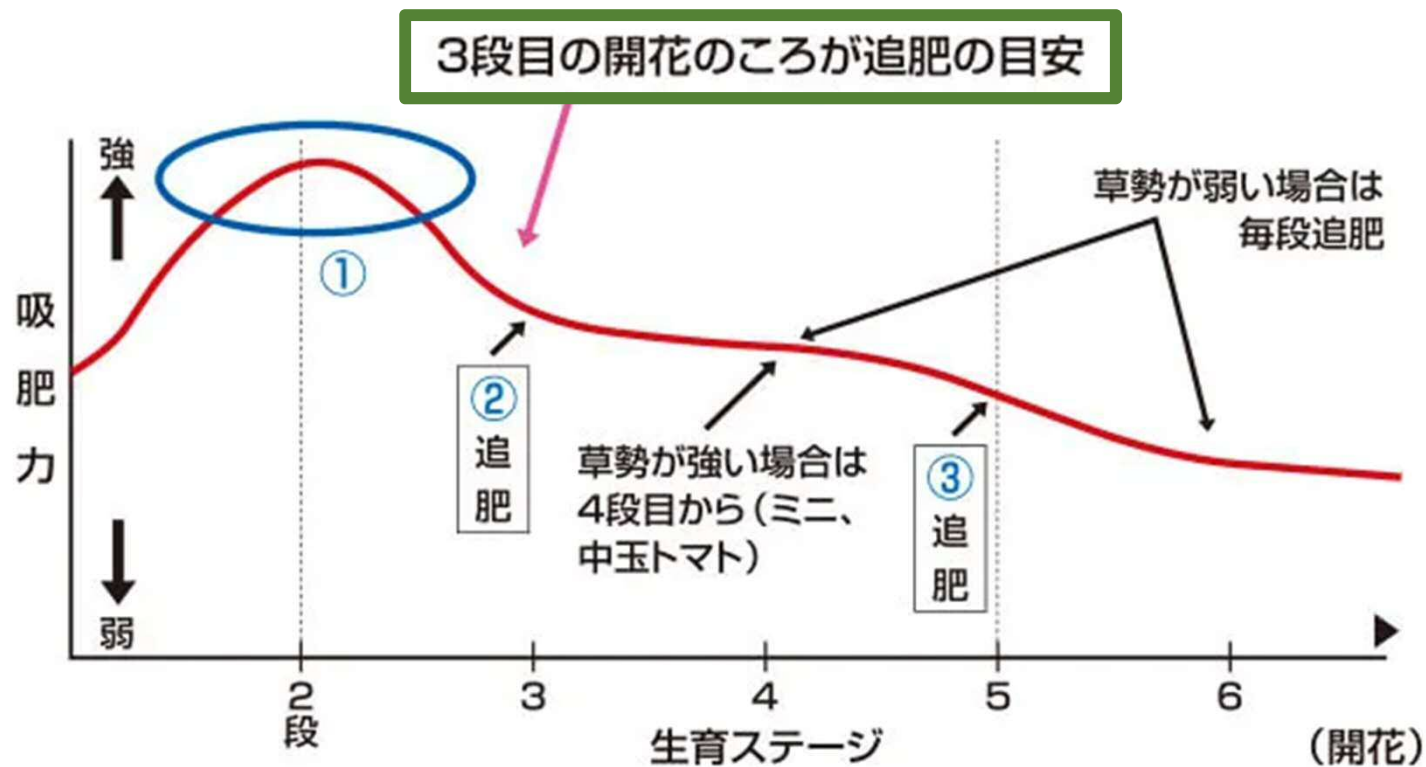
摘果する実：形が悪いもの、先の方の実、
尻ぐされ果など



追肥

○追肥のタイミング

1回目の追肥時期の目安 : 3段目の花が咲いたころ



収穫

果実が赤く着色したら収穫する

<ポイント>

- ・第1花房は、確実に実をつけること！
手で花を揺する、ホルモン処理（例：トマトトーン）等

<果実がうまく実らない主な原因>

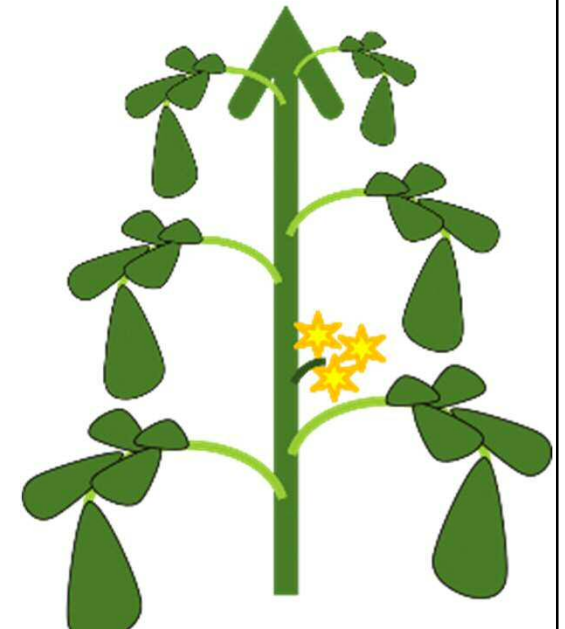
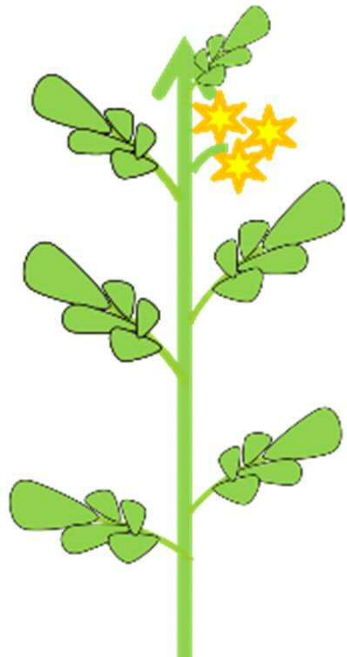
受粉しなかった(※)、肥料切れ、日照不足
高温・乾燥、多湿、株の勢いが強すぎる など

※受粉しなかった

特にハウス栽培の大玉トマトは受粉しにくい

⇒ホルモン処理（トマトトーン）すると着果しやすい

生育診断の目安



不足	←	栄養（窒素）	→	過剰
株の勢いが弱くなる 花が落ちてしまう 成長しなくなる	←	株の様子	→	株の勢いが強くなる 実が付きにくくなる 芯が止まることがある
細い	←	茎の太さ	→	太い
薄い緑	←	葉の色	→	濃い緑
上向き	←	葉の様子	→	内側に巻き込む
先端近くで咲く	←	花	→	先端からかなり離れた部分で咲く

生育バランスのとり方

<対応例>

○株の勢いが弱い場合

- ・ 追肥する
 - ※かなり弱っている場合、速効性のある液肥がオススメ
- ・ 摘果して果実を減らす

○株の勢いが強い場合

- ・ 肥料を与えないで様子を見る
- ・ 摘果やわき芽の芽かきを遅らせる

(強くなりやすくなる要因)

- ・ 元肥が多い
- ・ 追肥の時期が早い
- ・ 植え付け以降の水やり量が多い
- ・ 若い苗を植えた

代表的な病害

青枯病（あおがれびょう）

トマト、ナス、ピーマンなどで多い病害（細菌）

<症状>

- ・ 急に株全体が青い葉のまましおれる。
数日後には枯死し、次々と発病株が増えてくる。

<対策>

- ・ 発生した畑での作付けをやめる
- ・ 病株は早い時期に抜き取り処分する
- ・ 接ぎ木苗の利用
- ・ 収穫等で使用したハサミの洗浄

尻腐れ（生理障害）



<原因>

- 土の中のカルシウム自体の不足
- 土の中のカルシウムは足りているが、カルシウムが吸収しにくくなっている

- ・高温、乾燥
 - ・窒素過剰（株の勢いが強い）
 - ・カリや苦土肥料が過剰
 - ・根が弱っている
- など

<対策>

- ・急激な乾燥防止（マルチを利用する）
- ・肥料を多く与えすぎない
- ・葉面散布剤を使う

裂果（れっか）



<原因>

○急激な土壌水分の変化

○真夏の高温（実の皮が硬くなる）

<対策>

- ・急激な乾燥防止
（マルチを利用するなど）
- ・定期的な水やり
（水やりの量を極端に変えない）
- ・高温期に光が
直接、実に当たらないように遮光
（日よけになる葉を充実させる）

など

キュウリ栽培ポイント

- キュウリの特徴
- 植え方
- 栄養状態の見方
- 代表的な病害虫

キュウリについて

- ・ ウリ科野菜 （スイカ、メロン、カボチャなども同じ科）
- ・ 嫌光性種子 ⇒ 種まきの時には土をしっかりと被せる
- ・ 根が浅く張る ⇒ 乾燥に弱い
- ・ 低温にも高温にも弱い（夏野菜だが、真夏の暑さは苦手）

発芽適温：25～30℃

生育適温：23～38℃（日中）、13～18℃（夜間）

施肥設計例（1 m²当たり）

	肥料名	施用量
元肥	完熟堆肥	2 k g
	苦土石灰	1 0 0 g
	有機入化成特 A 8 0 1	2 0 0 g

雄花と雌花

○雄花（おばな）

雌しべが退化し、雄しべのみ（花粉が作られる）

○雌花（めばな）

雄しべが退化し、雌しべのみ（果実ができる）

花の付け根部分に果実のもとになる子房がある



雌花

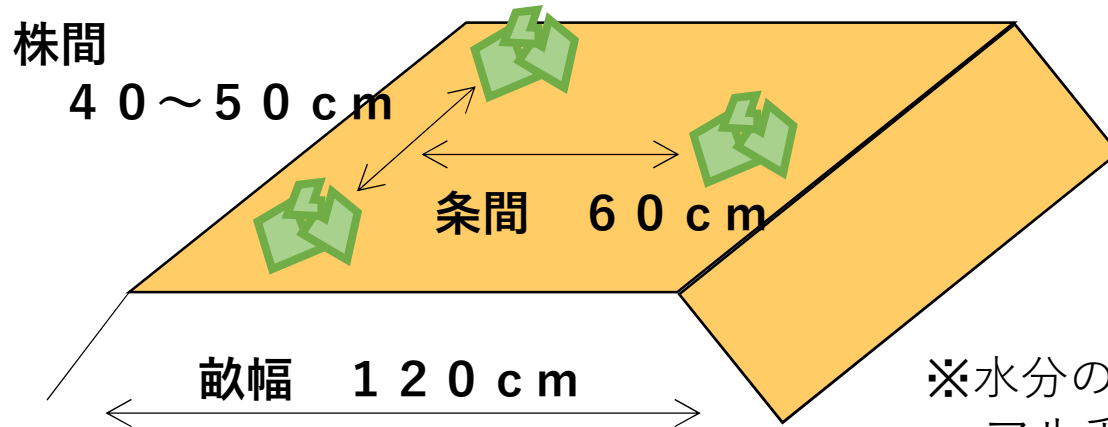


雄花

植え方

(例) 70 cmの畝に1条、株間40～50 cm定植

120 cmの畝に条間60 cmで2条、株間40～50 cm定植



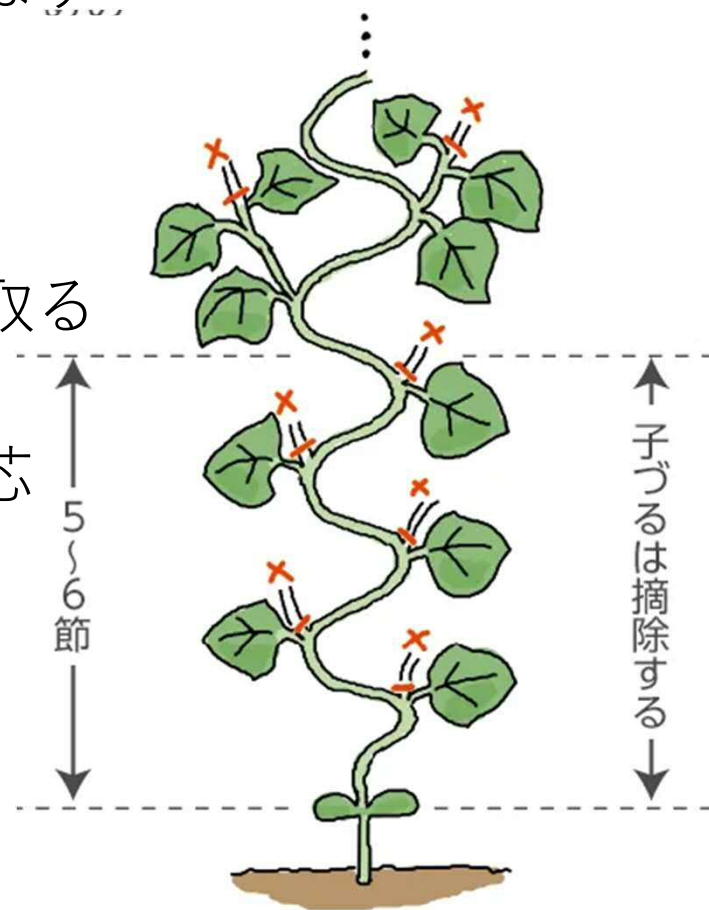
※水分の蒸発防止、雑草防止のために
マルチを使用するとよい

★植え付けのポイント★

- ・ 植え付け前は苗に灌水する ※しおれた状態で植えない！
- ・ 深く植えすぎないように苗を植え付ける。
- ・ 植え付け後、根付くまでは乾燥させないように注意！

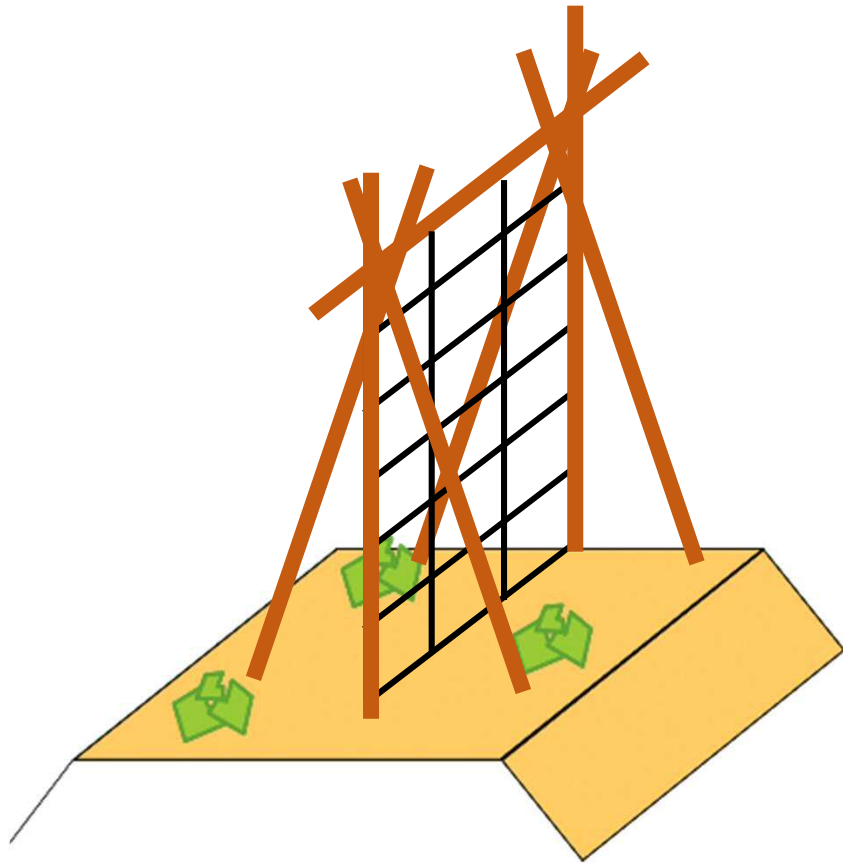
整枝（せいし）

- ・ キュウリは葉の付け根（節）に花が咲く
⇒ 枝を伸ばして節を多く確保する
- ・ 茂り過ぎの防止や元気な若い枝を伸ばす
⇒ 親づる
 支柱の高さまできたら摘芯
 株元から5～6節
 わき芽（子づる）と雌花を取る
 株元から7節以降
 子づるの葉を2枚残しで摘芯



誘引 (ゆういん)

- ・ つる性のため、支柱やキュウリ用ネットを使って栽培



追肥・収穫

○追肥

1 回目の追肥時期の目安

・・・1 本目の果実が採れはじめ頃

※肥料切れしないように追肥をする

○収穫

収穫目安 （開花後 7 ～ 1 0 日後）

長さ 2 0 c m、重さ 1 0 0 g 程度のものを取る

※果実の採り遅れや収穫忘れは株を弱らせるので注意！！

（果実が曲がる原因）

水分不足、肥料切れ、株が弱る、日照不足

生育診断の目安

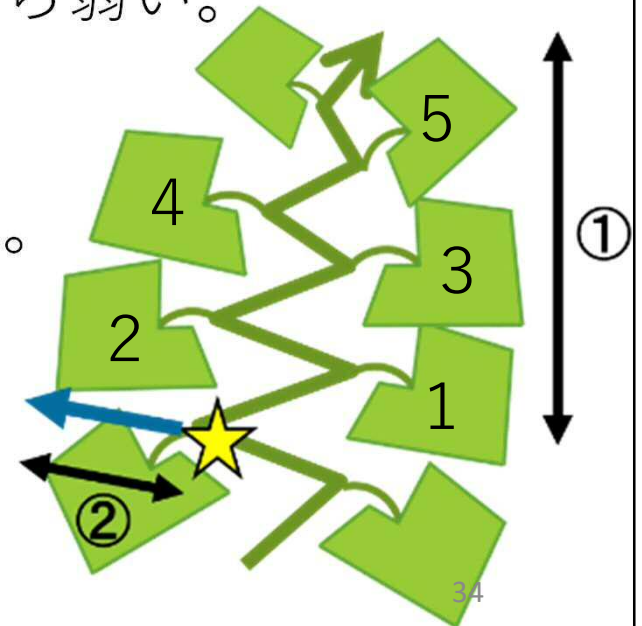
○初期生育が順調にいくことがポイント！

⇒ 収穫が始まるまでに株をしっかりと作る

○草勢判断 本葉15～18枚程度（8～10節の開花頃）

①開花節から成長点までに、
葉が5～6枚あれば順調。それ以下なら弱い。

②開花節から発生している側枝の長さ
小指以上なら順調。それ以下なら弱い。



代表的な害虫

ウリハムシ（ウリバエ）



〈対策〉

- ・ 防虫ネットの利用
- ・ シルバー（銀色）マルチの利用
- ・ 農薬（殺虫剤）の利用

代表的な病害（うどんこ病、べと病）



○うどんこ病（糸状菌）

<発病に適した条件>

- ・比較的高温でやや乾燥条件でかかりやすい

<対策>

- ・発病を抑える環境づくり
- ・農薬（殺菌剤）の利用



○べと病（糸状菌）

<発病に適した条件>

- ・やや低温で多湿

<対策>

- ・発病を抑える環境づくり
- ・農薬（殺菌剤）の利用

次回、野菜づくり講座

6月17日（土）

10：00～12：00

場所：町民ホール ほか

アンケートへの回答のお願い